



図1 表紙



図2 見返し・巻頭

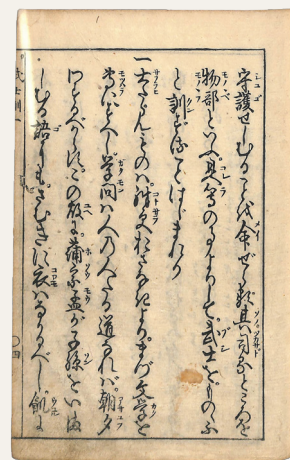


図3 巻1、4 丁表

ばんりょう
井沢蟠龍著『武士訓』

(正徳5年<1715>、京都茨木多左衛門刊)5巻合1冊 熊本県立大学文学部蔵

武士が平生心がけるべき事柄を、簡条書きに羅列して示した教訓書。著者は熊本藩に仕えた井沢長秀(号、蟠龍)、版元は京都の書肆茨木多左衛門(柳枝軒)。

本文中、蟠龍はその学識を活かし、和漢の様々な故事を具体例として、忠孝や義理という、武士身分に最も必要とされる道徳規範を中心に、起居進退から人間関係に至る様々な場面のあるべき姿を説いている。その思想の根幹はやはり朱子学で、折々に蟠龍が関心を有していた神道に基づく言説が目に入る。

本書の印象深い点は、武士向けの教訓書ながら、

武芸よりも「文学(学問)」を最も重視していることである。巻4末に、本書が同時代の福岡藩儒員原益軒が続刊した教訓書群を挙げ、それに漏れたことを補って武士道について述べたと概括し、巻5に武芸についての話題をまとめて載せるほかは、巻頭から専ら学問の重要性について紙幅をさく。これは、太平の時代に生きる武士が自らをどう規定していたかを示し、また、存在意義を那邊に見出すかという試みの一端とも言えるだろう。身分制度の頂点に立つ者のアイデンティティを窺い知る助けとなる資料である。

(文学部日本語日本文学科准教授 真島 望)

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

春秋彩

Shunjusai

vol.64

熊本県立大学広報誌

2026
Spring



CONTENTS

学長あいさつ	2
特集 最先端機器を自在に 新イノベーション 5年目迎えるSPARC(地域活性化人材育成事業)	3
研究活動紹介	7
大学の動き	8
後援会だより	9
活き活き元気種	10
おすすめの一冊・人事情報	11
熊本県立大学アーカイブズ	12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

2026年の春
日本から
世界を
見渡して感じる



熊本県立大学長 堤 裕昭
Tsutsumi Hiroaki

世界史を顧みると、国力を増した国が周辺域へ勢力を拡大し、戦いで手中に収めようとするものが繰り返されてきました。2020年代にも同様の動きは続いています。そして、我々もそれを歴史上何度も行ったことを忘れてはいけません。その一例は20世紀中頃の「大東亜共栄圏構想」です。日本は東アジア地域の盟主たらんと、西欧列強との無謀な戦いに挑み、一方で他の東アジア諸国に攻め入り、人々に対して横柄な振る舞いや態度を示しました。その結果として、日本国民が後に被った損害は計り知れません。我々はこの歴史への反省を基礎に置き、戦後の混乱から這い上がり、平和で豊かで平等な社会を築く努力を重ねてきました。でも、まだ80年程の歳月が流れたに過ぎません。

今世界に目を見渡すと、20世紀初頭～中頃に起きたことの再来とも言うべき出来事が相次いでいます。幸いなことに、そこに日本は首謀者として関わってはいません。この80年の間、日本は戦後の荒廃した状態から努力を重ねて目覚ましい経済

発展を遂げ、その成果の一部を世界の福祉に還元してきました。自己の価値観を押しつけるのではなく、困難に直面する人々に寄り添い、自主的な発展を支えるかたちで世界に貢献してきました。このような活動は先の戦争への真摯な反省に基づくものでありますが、同時に誇るべき実績でもあります。先達の努力が実を結び、見事な経済発展を遂げた後もお謙虚さを忘れず、世界の人々の幸福を願い、地道な支援活動を続ける。この姿勢こそ、日本が世界に示し続けるべき態度であり、行動であると確信します。

大学生としての日々を過ごす皆さんには、各自が志す学問の領域を深めるとともに、個人の生き方、社会との向き合い方、そして世界との関わりについて考えてほしいと思います。友人、先輩、教員と語り合ってみてください。この国や世界の未来は世の流れの中で決まってくだけではありません。皆さん自身の努力で望む姿に創りあげることができます。

最先端機器を自在に 新イノベーション

熊本大学・東海大学と協力・連携

世界に羽ばたく人材を



5年目迎えるSPARC（地域活性化人材育成事業）

熊本県立大学では、地域社会に貢献できる人材の育成や地域活性化を目的とする文部科学省の「SPARC（地域活性化人材育成事業）」に参画し、令和4年度から6カ年計画で事業を推進しています。近年、熊本県では世界的な半導体企業の進出で、グローバル化や地域産業の活性化への期待が高まっています。県立大学は熊本大学・東海大学と協力・連携し、世界に羽ばたく人材の輩出

を目的として、多様な取り組みを展開しています。

現在5年目を迎え、各大学の得意とする科目の相互提供を行うことで、より高度な講義を提供しています。昨年、最先端技術を集めたSLC（スマートラーニングコモンズ）を県立大学内に創設。学生たちの自主的な研究を支援し、斬新なアイデアや情報技術で社会をリードする基盤が整い、次へのステップを歩み始めました。



アイデアを ホンモノに!

スマート コモンズ
最先端な共有空間で学生が自主的に研究

SLC スマート ラーニング コモンズ (SMART LEARNING COMMONS)

SPARCの拠点施設で、講義室を2部屋くっつけたほどの広さのSLC。令和4年度に創設された部屋は現在、総合管理学部で講義や自主ゼミ、イベントなどで利用されている。SPARC事務局の日比野友博特任講師に案内

してもらった。学生の自主的な研究拠点ではあるが、「高価な機材が多いため、利用にはSPARC事務局への申請が必要」。

ここに集う学生たちの斬新なアイデアが、最先端の機器を駆使することで結実し、世界に飛び出していく日もそう遠くはない。

3Dスキャナー・プリンター

ハンドメイド家具もOK

3Dスキャナーは現実世界の物体を3Dに落とし込む機械。いろいろな角度からCTスキャンのように撮影すると3Dデータを復元することができ、3Dプリンターでデータを立体的なものに変換できます。熊本県からライセンスを取った「くまモン」のキーホルダーを作成していました。3Dプリンターで複製したお面や、3Dデータを取得して作成した、標高を反映した熊本県の市町村地図パズルもあります。

簡単なものだと、ハンドメイド家具がすぐれたり、特殊なフィラメントを使った靴などもプリントできたりします。人工関節をオーダーメイドで作ることもできるかもしれません。まずは、何かができるということを学生に体感してほしいです。



VR(仮想現実)

水害現場をリアルに体験

VRでは情報の世界を体感できるので、移動距離や危険などを無視することができます。工場訓練とか、高所訓練とかは危険を冒さずにできるので、社会的な意義があると思います。不動産の内見なども同じ体験がVRでできるのであれば、移動距離を節約できます。ちなみに、VRはCGの中の世界を体験することで、ARは現実の世界で、CGの情報を付加することです。

災害避難の体験への活用を考えることもできます。例えば、ハザードマップを立体化し、浸水する箇所を予測。浸水時の映像を立体化して、災害時の避難経路を体験することにより、実際に水害が発生したときにどうやって逃げるか、本当にその場にいるかのように疑似体験できる可能性があります。

また、体に不自由がある人でもVR空間では自由に動くことができます。物理的なバリアによって実現できなかった交流などもできるというのもVRの重要な働きの一つだと思います。

ドローン

高所や危険地も安全に、安く

自動制御や遠隔操作によって飛行する機体で、航空法上では「無人航空機」と呼ばれています。学内で保有しているドローンには、デジタルカメラが搭載されており、高解像度の映像撮影が可能です。SLC内で実際に操縦を体験できるほか、教員立ち合いのもとでキャンパスの空撮などにも活用しています。飛行にあたっては様々な規制があり、操縦資格の取得や飛行申請が必要な場合もあるため、注意が必要です。

既に空撮をはじめ、物流分野での配送補助や農業分野での農薬散布、災害時の被害状況確認などに利用されています。



無人であることから、高所点検や危険区域の飛行も安全に行え、有人飛行よりも安価に運用できるなど、幅広い用途での活用が期待されます。

ロボット

遠隔地から操作し会話に参加

お客さんが来た時に、「ようこそ県大へ」みたいな使い方をしています。昔あったペッパー君のようなものです。ナビゲーションする時に、「落ち着いて付いて来てください」という音声を出しながら案内します。国際交流の催しでは多言語化を活用し、学校案内の補助を行いました。

技術がどのように連携すれば、私たちの生活で活用ができるかを考えるきっかけになればと思います。例えば、個人の英会話をカジュアルに行っているケースもあります。身体性があるので、画面や音声だけよりは、リアルなコミュニケーションに近い状態で会話を行うことができます。外部の方や遠くに住んでいらっしゃる方は、画面からZoomに入るとロボットを操作することができるので、グループを自由に移動して会話へ参加することができます。ロボットを通して遠隔地とコミュニケーションするのも、自然なことになるかもしれません。



面白いものを 生み出して



日比野友博 特任講師

—SPARC(地域活性化人材育成事業)の特徴を教えてください。

文部科学省のプロジェクトで、全国で6地域(山梨、信州、岐阜、山口、熊本、宮崎)が採択され、さまざまな大学が先進的な教育をしています。熊本エリアでは、県立大学と熊本大学、東海大学が連携しています。

県立大としての取り組みは「連携開設科目」です。各大学の得意な講義をお互い融通しようというもので、熊本大学からは「現代社会と半導体」の講義を、県立大からはデータサイエンスの基礎科目を提供しています。また、よりハイレベルな英語教育の提供を進めています。

—創設されたSLCの活用はいかがですか?

SLC(スマートラーニングコモンズ)は、出来るだけ先進的な機器を集めて、最先端の部屋を作ろうというモチベーションで新設されました。3Dプリンターやドローン、VR機器などの活用は、すぐは難しいかもしれませんが、ゼミなどの研究で触って、面白いものを生み出してもらったらうれしいです。

基本的に、学生から「こういうことがやりたい」という声があれば、ゼミの先生を通して利用許可しています。事務局は利用するときの窓口の役割も兼ねています。

—専門とされている「知識科学」とはどういったものですか。

知識の生み出し方、知識とは何かということを科学的にアプローチする学問です。私の専門はVRであり、知覚の仕組みやVRの仕組みを使って、いろいろなものを生み出すことになります。

【プロフィール】1987年9月生まれ。愛知県尾張旭市出身。JAIST(北陸先端科学技術大学院大学)で博士号取得。知識科学専攻。2024年、熊本県立大学SPARC事務局に着任。

未経験、だけど挑戦！ 「学びたい」を実現できる

SLC(スマートラーニングcommons)を拠点に活動しているのは、ゼミに配属される前に研究活動の素養を養うため発足した「うさぎラボ」の1,2年生たち。総合管理学部2年の田中理莉杏(りりあ)さんは、最先端技術を活用しながら、日々慣れない研究活動に取り組んでいます。

田中
理莉杏

総合管理学部総合管理学科情報専攻2年



興味があることを一から実現していく

「大学に入るまでは、特別に情報技術に興味があったわけではありません」と語る田中さん。大学でプログラミングの講義を受け、情報技術の面白さに触れたことが研究を始めるきっかけとなりました。より詳しく学んでみたいと意欲が高まっていたころ、「うさぎラボ」が立ち上げられます。ゼミ配属までの期間がまだ長く、研究を行う機会がない中で、興味関心を深められるうってつけの環境でした。

田中さんが初めに着手したのは、パソコンのショートカットキーについて、遊び感覚で学べるアプリケーションの開発。気になったショートカットキーを選択すると、操作説明のトライアル動画が流れ、動画を見ながら実際に操作できるというもの。「便利な機能を日常的により活用してもらいたい」という思いから制作しました。



AR機器の有効性を検証する実験も

現在はApple Vision ProというAR機器を活用し、AR機器の使用経験の差による違いを検証する実験に挑戦しています。AR機器を装着した状態で、見本となる写真を見ながらパズルを組み立てます。見本となるのは、平面画像と立体画像

の2種類。「仮想空間であれば、立体画像を見た方が組み立てるのは早い」という仮説を立てて実験しました。

ところが、AR機器を使ったことがない人は、普段は平面でしか物を見ていないので、かえって時間がかかってしまうケースも。「使用したときに起こる画面酔いなども起きそうです」。それでも何回か体験すると、同じ早さでできたり、逆転して早くできたりすることもあるそうです。

仮想空間に対して不慣れな人が多い中、AR機器等による補助は実際に役に立つものなのかを検証しています。

社会に還元されるアプリの開発を

作品発表会で、先生から「ぜひそのアプリを使って授業をしてみたい」とほめられ、自分のアイデアは人の役に立てるものなんだ、と自信につながったそうです。「アプリの構想から実現まで行えたことは、とても良い経験となりました」

「自分の作りたいという気持ちだけでなく、人の役に立つものを生み出したいです。社会に還元されるものであってほしい」と田中さん。研究の将来性について前向きな展望がうかがえました。「最新機器に触れてみたい人、情報に興味がある人、やってみたいことがある人に、ぜひ参加してみしてほしい」とメッセージをくれました。



身近な微生物から広がる新しい可能性

— 食の安全と健康、環境にやさしい素材をめざして —

微生物の力を社会に生かす研究

私は、応用微生物学を基盤として、食品・環境・健康に関わる微生物の働きとその活用について研究しています。微生物は普段目にするものがない小さな存在ですが、発酵食品の製造や環境の浄化、有用物質の生産など、私たちの暮らしを支える大切な役割を担っています。本研究室では、身近な食品や自然界に存在する微生物に注目し、その働きを解き明かし、社会に役立てることを目標としています。

乳酸菌とバクテリオシンの研究 一食の安全と健康に向けて

主な研究の一つは、乳酸菌が産生する抗菌ペプチド「バクテリオシン」に関するものです。乳酸菌は発酵食品に利用される身近な微生物であり、食品の保存性向上や有害細菌の増殖抑制に役立つことが知られています。本研究では、バクテリオシンの抗菌特性や作用機構を解析するとともに、生合成に関わる遺伝子群、発現制御、成熟化過程、分泌機構などの生産メカニズムを分子レベルで解明することを目的としています。これらの知見を基に、食品の安全性向上や保存技術への応用を目指すとともに、乳酸菌や腸内細菌叢の相互作用など健康機能に関する基礎研究も行っています。

バイオプラスチックの研究 一食と環境をつなぐ新しい素材

もう一つの柱は、微生物がつくるバイオプラスチック(生分解性プラスチック)の研究です。従来のプラスチックによる環境問題が深刻化する中、自然界で分

研究活動紹介

教授 環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻
松崎弘美

解される新しい素材の開発が求められています。プラスチックは食品包装など私たちの食生活とも深く関わっており、環境に配慮した素材への転換が重要となっています。私は、微生物が生み出す生分解性プラスチックの生産や性質を調べるとともに、CO₂を原料として実用的なバイオプラスチックをつくることにも挑戦しています。環境負荷の低減と資源循環に貢献し、持続可能な社会の実現につながる研究を目指しています。

微生物由来バイオプラスチックフィルム

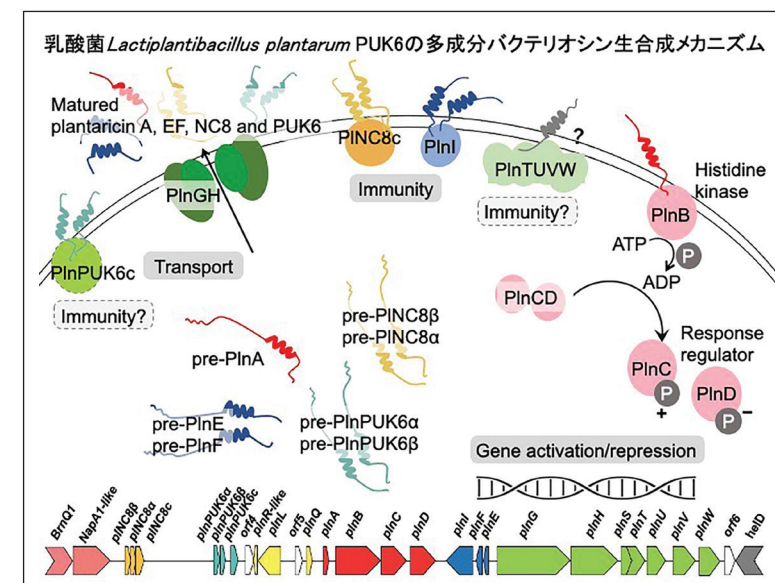


学生の成長を支える研究教育

研究教育の面では、学生が実験や研究を通して「発見する楽しさ」を実感できるよう心がけています。自ら課題を見つけ、考え、試行錯誤を重ねる経験は、専門知識の修得にとどまらず、主体性や問題解決力を育てます。こうした研究活動の中で、これまで多くの大学院生が学会発表において学生賞(優秀発表賞)を受賞しており、学生たちの大きな励みとなっています。今後も微生物の可能性を探究し、その成果を社会へ還元するとともに、研究を通じて次世代を担う人材の育成に努めてまいります。

プロフィール

九州大学大学院農学研究科食糧化学工学専攻博士
後期課程終了 博士(農学)
科学技術振興事業団(理化学研究所にて勤務)博士
研究員を経て2000年より本学勤務



大学の動き

白石隆 特別栄誉教授が瑞宝重光章を受章、特別講義を開催

2025年11月3日付けで秋の叙勲が発令され、本学の第3代理事長である白石隆特別栄誉教授が「瑞宝重光章」を受章されました。瑞宝章は公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与される勲章



受章祝いの花束贈呈(左:黒田理事長、右:白石特別栄誉教授)

です。

12月2日には白石特別栄誉教授による特別講義「新冷戦時代の世界、アジア、日本」を開催し、約300人の学生・教職員が聴講しました。



白石特別栄誉教授による特別講義

球磨川流域圏バーチャルキャンパス 課外授業withくま鉄 を実施しました

令和2年7月豪雨からの創造的復興をめざし開催してきた「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」は、2025年度で最終5年目を迎えました。最後の現地ツアーを2025年12月21日に人吉市周辺で開催し、受講生21名が参加しました。環境共生学部の柴田祐教授と、くま川鉄道の永江友二社長を講師に迎え、各所で講話をいただきました。くま川鉄道を貸し切った車内では、人吉球磨の風景を眺めながら永江社長の講話を聴き、地元のお弁当を味わいました。2026年の全線復旧が待ち望まれています。



インターナショナルフェスティバルin 白亜祭を実施しました

2025年11月8日、本学の学園祭「白亜祭」に合わせて「インターナショナルフェスティバルin白亜祭」を開催しました。留学生の出身国である、韓国、中国、インドネシア、ガーナ、米国の5カ国の展示ブースで、留学生と日本人学生が民族衣装や音楽、食文化や観光地の紹介、名前を書く体験など多彩な企画を実施し、約450名の来場者が異文化交流を楽しみました。お茶の試飲やスタンプラリーも好評で、「体験型で印象的だった」「世界を旅した気分になった」など多くの声が寄せられました。



参加した本学留学生及び日本人学生ボランティア

黒田理事長が県内の高校で講演を実施

半導体の研究者でもある黒田忠広理事長が『半導体を学ぼう』をテーマに県内の高校で講演活動を行っています。2026年3月までに水俣高校、第一高校、学園大学付属高校、第二高校、文徳高校、開新高校、熊本高校、熊本北高校、熊本工業高校(実施日順)で実施しました。

講演では、スマホやゲーム機、AI(人工知能)など、身

近なテクノロジーに欠かせない「半導体チップ」がどのように作られ、今後どうなっていくかなどを解説し、本学の半導体学部(仮称)設置に向けた取組についても紹介しました。参加した生徒からは、「どうして半導体の構造は今の形になったのか」「社会における半導体の重要性が理解できた」「県立大の新学部に興味が湧いた」など様々な質問や感想をいただきました。



リアル就活最前線

～学生による学生のための、本音の就活相談室～

熊本県立大学 総合管理学部4年の松山です。私は現在、CCA(キャンパスキャリアエンジェル)として活動をしています。

CCAとは、就職活動を終えた4年生がスチューデントアドバイザーとなり、自身の経験を活かして後輩の進路選択を支援する活動です。10月から3月にかけて、個別の面談や2・3年生向けの就活関連イベントの実施等に取り組んでいます。

全員に共通する「ひとつの正解」が無いのが就職活動だと感じています。だからこそ、学生一人ひとりの悩みや希望を聞いたうえで、それぞれの学生にあったアドバイスをするように心がけています。

私自身、CCAの先輩方にたくさんアドバイスをもらいながら就職活動を乗り越えた経験があります。就職活動では大きな挫折も経験しました。後輩たちにはできるだけ納得のいく進路の選択をしてもらいたいと思っています。

私が先輩方から受け取ったバトンを、後輩たちへ受け継いでいけるように、「アドバイス」という形ではありませんが、後輩たちの就職活動のサポートは全力で取り組みたいと考えています。



※後援会は、この取組みを就職対策事業で助成しています。

後援会だより

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職活動(インターンシップ等)経費(交通費及び宿泊費)の一部助成、各学部・学科・専攻で行うキャリア形成支援事業助成、在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成 他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、学食での食育支援、予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成 他
- 卒業式のカウン貸与、記念品贈呈 他

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



火の国杯での集合写真。前列左端が竹之下さん

記事作成者

たけのしたはるか
竹之下超

総合管理学部総合管理学科2年

6年ぶり車椅子バスケット大会！

皆さん、こんにちは！総合管理学部総合管理学科2年、松本ゼミ所属の竹之下超です。

私は車椅子バスケットボールチーム『熊本Bond』に所属しており、週に1回、熊本赤十字病院の近くにある熊本県身体障がい者福祉センターで練習をしています。

今回、6年ぶりに熊本で車椅子バスケットの大会である『火の国杯』が2025年10月25日(土)～26日(日)の2日間にわたって開催されましたが、開催にあたってゼミの松本先生を通じて本学から多くのご後援を賜りました。そのお力添えもあり、今大会は九州各県から7チームが参加し非常に白熱した大会となりました。

私たち熊本Bondは大会1日目に鹿児島県、2日目に長崎県と対戦し、観戦に来てくださった松本先生をはじめ多くの方々に応援される中で試合でした。鹿児島県との試合では相手チームに熟練者が多く、私自身も長所であるスピードを活かし、得点を決め奮闘しました。

長崎県との試合では、相手チームに対して効果的なディフェンスを行い、相手のシュートを防ぐなどディフェンス面で貢献したことで前半は接戦でしたが、オフェンス面で攻め手を欠いてしまったことによって後半に逆転され悔しい結果となってしまいました。

しかし、ディフェンスに関してチームメンバーからも試合中に「ナイスディフェンス！」と声をかけてもらえたことは、

大きな成長だと感じています。

1日目、2日目ともに勝利することは叶いませんでしたが、この経験を普段の練習に活かし、今後の大会に繋げていきたいと思います。

今後も熊本で車椅子バスケットの大会が開催される機会もあると思いますので、大会を通じてその魅力を皆さんに伝えられるよう尽力します。熊本で大会が開催された際は、是非会場に足を運んでいただければ幸いです。

現状、車椅子バスケットを含むパラスポーツは多くの人に認知されているとはいえないものであり、普及には至っていません。そのような中で、今回多くの方から理解と協力を得られ、火の国杯という車椅子バスケットの大きな大会を開催できたことをとても嬉しく思っています。

最後になりますが、火の国杯へのお力添えをいただいた本学の皆様に改めて感謝を申し上げるとともに、熊本Bondの活躍がパラスポーツの普及に繋がることを切に願っています。



写真中央が竹之下さん

お一冊

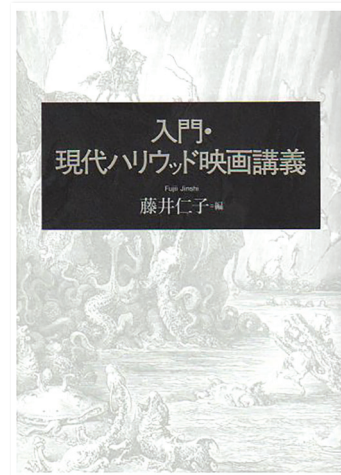
入門・現代ハリウッド映画講義

編者：藤井仁子

第一次世界大戦前後にグローバルな覇権を築き、現在も映画産業の中心に在り続けるハリウッド。本書はスティーヴン・スピルバーグ監督『マイノリティ・リポート』(2002年)のような、エンターテインメント性に富んだ2000年代のハリウッド映画を丁寧に読み解きつつ、ハリウッドの第1世紀の歴史を読者に想い描かせ、振り返らせる、学術的な仕掛けに満ちた「入門」書です。

私達は今、雲を掴むような高予算のエンターテインメント映画も個人の自撮コンテンツも共に、インターネット上に溢れ返る社会に居ます。日本語や英米語と同様、動画像を読む・書く・聞く・話す力の重要性が益々、高まるのは想像に難くありません。日本の大学院教育を通じ、本寸法の映画学を修めた第一世代(私の憧憬の先輩方です！)が著者に名を連ねる本書は、出版後、約20年を経た現在も、動画像の大海原を泳ぎ渡るための格好の水先案内です。

出版社：人文書院 出版年：2008年
ISBN-13:9784409100240



文学部
日本語日本文学科・
准教授

羽鳥 隆英

人 事 情 報

●採用 (令和8年4月1日付)

【文学部】
教授 武藤 彩加

【環境共生学部】
准教授 神山 拓也
講師 中下 千尋

【総合管理学部】
教授 ラージャパクセ ジャーナカ
教授 岩井 琢磨
准教授 下畑 浩二
講師 飯嶋 佑美
講師 李 嬌

●昇任 (令和8年4月1日付)

【文学部】
教授 小川 晋史

【総合管理学部】
教授 石橋 賢

●退職 (令和7年度)

【文学部】
准教授 田中 和也
准教授 岩田 芳子

【共通教育センター】
教授 青木 朋子

【環境共生学部】
教授 松添 直隆
教授 松本 直幸
准教授 岸 知子

【総合管理学部】
教授 高埜 健
助教 エロネン ユーソ カレビ クリスティアン

●令和8年度 学長等について

【学 長】
堤 裕昭

【副学長】
山田 俊

【文学部長】
米谷 隆史

【環境共生学部長】
白土 英樹

【総合管理学部長】
宮園 博光

【共通教育センター長】
西本 陽一

【文学研究科長】
村尾 治彦

【環境共生学研究科長】
柴田 祐

【アドミニストレーション研究科長】
澤田 道夫

【図書館長】
鈴木 元

【地域・研究連携センター長】
石橋 康弘

【デジタルイノベーション推進センター長】
森山 賀文

【国際教育交流センター長】
モロー ジェフリー スチュワート

【キャリアセンター長】
友寄 博子

【保健センター長】
下田 誠也